



SIGNIS JAPANニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）

代表：千葉茂樹

発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42

聖パウロ女子修道会内

TEL. 03-3479-3941 E-mail : info@signis-japan.org

http://signis-japan.org/

「ロザリオの月」を迎えました。皆さまお元気でお過ごしのことと存じます。ニュースレター、「タリタ・クム！」の第4号をお届けします。この言葉は、イエス様が亡くなった少女を生き返らせた時に呼びかけた言葉で、アラマイ語で「起きなさい！」の意味です。さまざまな意味で今、神様から私たちに向けられた言葉だと思います。回を重ねるごとに魅力あるものにしていきたいと願っています。やっと4号まで刊行にこぎつけました。よろしくお願いします。

ニュース 2010年度の「シグニス アジア会議」開催ー「環境保護とメディアの役割」テーマに

9月20日から24日にかけて、インドネシアのスラバヤ市で今年の「シグニス・アジア会議」が開催されました。世界13の国と地域から60人が集まりました。日本からはSIGNIS JAPAN（シグニス・ジャパン）の町田雅昭事務局長とカトリック亀有教会所属の谷口ひろこさんの2名が参加しました。

今年のテーマは「平和を育み、創造物を守るのはメディアの役割」。基調講演ではミニズを使って有機農業を広めているフィリピン人のご夫婦が登壇し、化学肥料や殺虫剤に頼る農業から、土壤の再生、自然との調和、人間性の回復を目指した有機農業を推進するべきであると強調しました。

また24H FM局の次長からは、「メディアはもっと森林の破壊や水質汚染、災害・環境問題を取り上げるべき」との主張がなされました。シグニスの立場は、「食糧と正義がなければ平和はない」との認識で、各地域、地域でもっと積極的に環境問題を取り上げていこうと決意。最終的には人々を新しいライフスタイルに導く役目がシグニスにはあることを皆で確認し合いました。うれしいニュースは、ブルネイが新たに「シグニス」の組織に加盟したこと、東ティモールがオブザーバー参加したことでした。



インターネットセミナーを開催！

7月24日、大田区のカトリック田園調布教会で「教会とインターネットセミナー」が「教会ホームページ担当者交流会」も兼ねて開催されました。猛暑の中、45名の方が参加しました。今年はマザー・テレサの生誕100周年ということもあり、マザーと特別なかかわりをもつ映画監督の千葉茂樹・SIGNIS JAPAN会長が基調講演を行いました。マザーとの貴重な思い出や、中絶に対するマザーの強い怒りや弱者への限りない慈しみ、そして監督自身が試みている「映画作り」を通した子どもたちの全人教育の様子等が紹介されました。後半は副会長の土屋至さんの司会で、3つのYouTube映像を使って学習が行われました。飽食と飢餓に鋭く切り込んだ「チキンアラカルト」、神は存在しないとする教師に向かって敢然と立ち向かう子どもを描いた「AIN SHU TAYN少年」、おすしを握る日本の幼い女の子を紹介したオランダの教育テレビ。いずれも5分ほどの短い映像でしたが、「映像の持つパワーの大きさ」を如実に実感させるものでした。SIGNIS JAPANでは今後も映像を教会ホームページに取り込む試みを重ねていきたいと思います。



映画チームからのお薦め映画『森聞き』

鈴木 浩

木こり、焼畑農業、杉の種とり、萱葺き。自然を相手に何十年も働いてきた「森の名人」と言われる高齢者たち。かれらの話を「聞き書き」するために四人の高校生たちが名人たちの生活の場を訪ねる。「森聞き」である。「地球が変わる時にきているのでは？」、「お金のために生きているなら死んだ方がマシ」「世界のため、人のために自分の力を使いたい」、そんな思いを抱く高校生たちと「森の名人」たち、同時に人生の達人でもあるおじいさん、おばあさんとの出会い。

高校生たちの慣れないインタビューが、いつしか人ととの本当の会話になっていく。

「森の名人」たちのことばは深い。「自然に人間が合わせていかんと」「生きるというのは、好き嫌いじゃない」、高校生たちだけではなく私自身もハッとする。煩雑な日常生活で忘れている大切なものの存在を教えられるからだ。やがて語る方にも、聞く方にも不思議な瞬間が訪れる。大切なことばを語る名人たちと、それをしっかりと受け止める高校生たちの表情が美しく輝き始めるのだ。語る名人たちの安らぎに満ちた顔、聞く高校生たちの清々しい顔、両者の表情は崇高と言ってもいいくらいだ。今、語つておかなければならないこと、今、聞いておかなければならないこと。柴田昌平監督は前作「ひめゆり」に引き続き、それらを見事に映像に記録した。



聞
き

2011年3月 ポレポレ東中野にて公開。以後、名古屋、大阪、鹿児島他で順次公開

<http://www.asia-documentary.com/morikiki/>

ミニミニ メディアリテラシー

「ロザリオの月」

暑い暑い夏もようやく終わり、「物思う秋」が巡ってきました。10月といえば「ロザリオの月」。就寝前に一家そろって小さな家庭祭壇の前にひざまずき、お父さんの先唱でロザリオの祈りをするといった風景も、もうすっかり過去のものになってしまいましたね。

そういえばこの光景、何かの映画で観たことがあるぞと記憶の糸をたぐると…。ありました、ありました。名匠ルキノ・ヴィスコンティ監督作品のイタリア／フランス合作映画「山猫」(1963年)の冒頭に、家族全員が祭壇の前でロザリオの祈り(ラテン語)を繰り返し唱えるシーンがあります。王室の終焉を迎えて没落していくイタリア貴族とその一家の顛末(てんまつ)を描いた古典的名作です。パート・ランカスター(米)、アラン・ドロン(仏)、クラウディア・カルディナーレ(伊)といった、当時の大物スターの3者共演ということでも話題を呼びました。キリスト教文化を土台とする欧米が発信する映画には、このようにキリスト教(カトリック)と関係するテーマや典礼、様式、人物等が数多く登場してきます。じっくり観察すると、その当時の教会のものの見方や考え方、様式、時代背景といったものまでが伺えて興味深いものがあります。

ところでこの「ロザリオの月」ですが、ロザリオが信心具として登場するのは13世紀。

聖ドミニコ(ドミニコ会の創立者。1170~1221)が異端と戦っているときに聖母から、「武器」として啓示された、と言われています。以後ドミニコ会士たちがその普及に力を注ぎ、ロザリオは世界中に広がっていきました。「バラの花冠」という意味の通り、一つ一つの祈り(珠)が輪となって、それが聖母への「祈りの花飾り」になるという美しい信心業です。10月を「ロザリオの月」と定めたのは、あの画期的な社会教説『レールム・ノヴァルム』を発布した人として知られる教皇レオ13世(1810~1903)です。この教皇様は「ロザリオ」や「聖母」に関して16もの回勅や教書を発表していて、「ロザリオの教皇」という異名(?)をとった方です。喧騒とあわただしい日常の中、ふと活動を止めてキリストのご生涯を黙想しながら、心静かに私たち一人ひとりの心の母である聖母マリアに祈る「ロザリオの信心」、この10月にもう一度心してみたいものです。



“接着剤の人、シスター白井詔子さんの思い出”

鈴木 浩



白井詔子(しらい・しょうこ)
聖パウロ女子修道会会員。初代
OCIC JAPAN会長。2000年8月帰天

シスター白井は聖パウロ女子修道会のシスターだ。私たちがともに活動したOCIC(国際カトリック映画・視聴覚メディア協議会、現SIGNIS)では、「接着剤」のような人だった。今もそう思っている。彼女は人と人をつなぐ名人だった。人と人が会う、そこにこそよいものが生まれる—そう信じていたに違いない。私もシスターを通してどれだけ多くのすばらしい出会いを与えたことだろう。

「よろしかったら、ご紹介します」と言う時のシスターのうれしそうな顔を忘れることができない。メディアを使っての福音宣教のアイデアを語る時の喜々とした表情も目に浮かぶ。OCICの集まりでのこと、皆が活動の今後を危惧していた時だった。重病で欠席と思っていたシスターが現れた。かすれた声で語った。「今のこの小さな状態だけでOCICを判断しないように。OCICはもっともっと世界的な広がりと可能性を持っているのだから」という内容だった。力強いメッセージだった。やがて会えなくなる皆にどうしても伝えておきたかったのだろう。シスターが逝ってから10年、この言葉に支えられ、私は力不足のまま活動を離れられないでいる。シスター白井の「接着剤」のおかげかも知れない。

SIGNIS JAPANとは

SIGNISとは世界140か国に拡がるカトリックのメディアに携わる人々の世界組織です。平和文化の促進、人間の尊厳擁護、子どもの権利擁護が近年のテーマです。司祭、修道者、一般信徒が参加しています。映画、放送、視聴覚、最近ではインターネットを活用した福音宣教に力を入れています。日本ではサンパウロ、女子パウロ会、中央協広報のほか、ボランティアの信徒が活動しています。カトリック映画賞、インターネットセミナーなどのほか、これからはインターネット放送局への取り組みなど、さらに活動の幅を広げていきたいと考えています。



第34回日本カトリック映画賞の授賞式で幸田司教からトロフィーを受け取る伊勢監督



賛助会員になってください！

私たちの活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年会費は一口3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、下記銀行口座、または郵便振替口座にお振り込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店
普通 1679019

SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹

郵便振替 口座番号：00100-0-534547

口座名称：SIGNIS JAPAN

連絡先：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42

聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN

info@signis-japan.org <http://signis-japan.org/>